

町教育委員会では、今年度から家庭教育相談員を設置しました。多様化する社会の中で、家庭教育の大切さは年々高まっています。夏休みを前に昨年七月の総理府で行なった世論調査から家庭教育の現状をさぐってみました。



家庭教育は、いま

—その役割とあり方は?—

家庭教育というと、とかく堅苦しいお題目や方針を並べたりますが、『これがわが家の教育方針だ』といった意図的なしつけよりも、子供は、ふだんの親と子の何気ない接觸、日常生活の何でもない一コマ、一コマから親の強い影響を受けることが多いのです。

家庭教育しつけを心がけるようにしたいものです。教育やしつけの効果が、子供の心にいちばん浸透するのは、幼稚園から小学校三、四年生にかけてです。

東京都立大学教授
詫摩 武俊

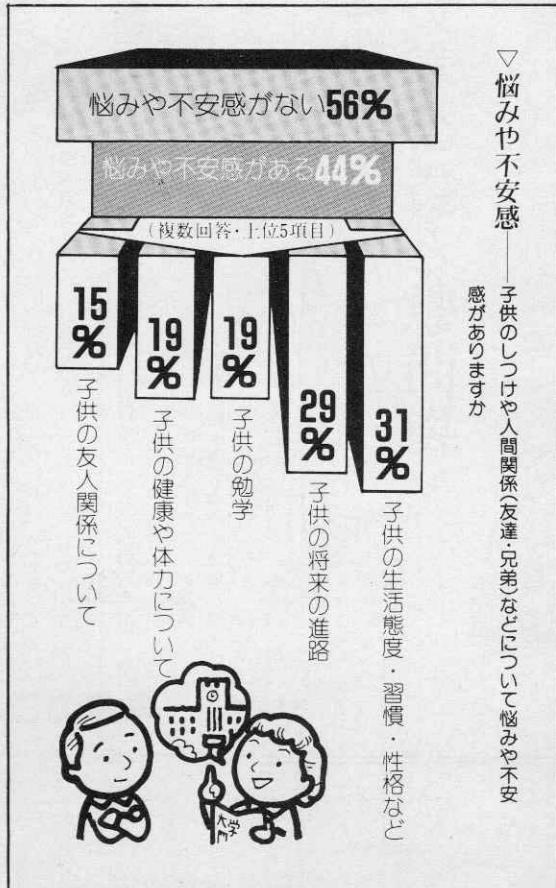


あつたこと、友だちのことなどをきりに聞いてもらおうとします。そんなとき『いま忙しいから』などと、そつ気ない態度をとるのはよくありません。

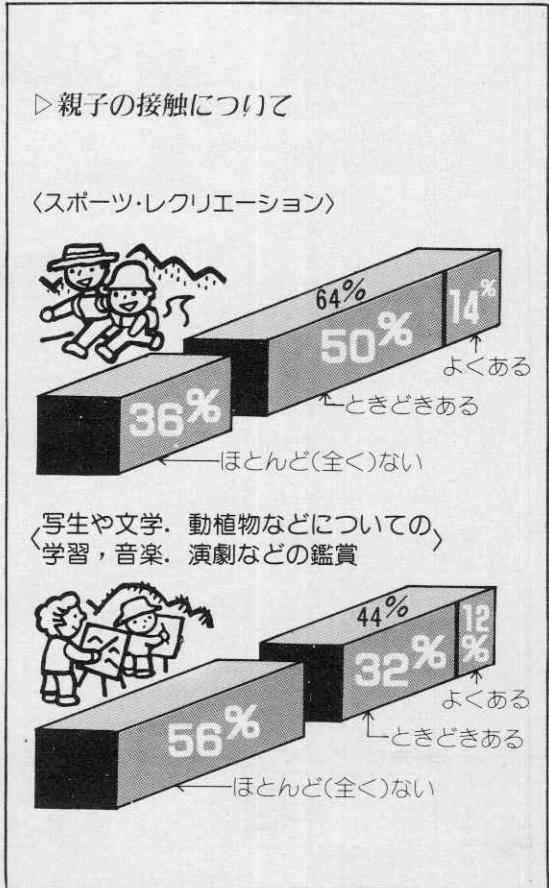
百科事典を開きながら一緒に調べるといった態度こそ大切です。教育とは、単に字が上手に書けるようになるとか、計算のしかたを教えることだけではなくて、子供の話に耳を傾けてほしいのです。ときには、いろいろな疑問をぶつけてくるでしょう。そういう場合も、いい加減にすませないで共に考えてやり、夕食後の団らんのときなどに、

親や教師のはたらきかけが柔軟な心にしみこんで、人柄なり性格の基礎が形づくられていくのもこのことです。この時期は、親と子の心理的な距離が非常に近く、親に何でも話したがります。学校

はあります。何が善くて、何が悪いことなのか、どんな痛みを覚えるか、どんな場合に感謝の念を持つか——とこのように子供のもやもや、ケーズが多いと言われています。このような子供のもやもや、不満を解消するためにも、ふだんから親と子が楽しいふんげきで話し合うことが何よりも大切だと思います。(談)



↑不安がいっぱい



↑少ないふれあい

